



出展者を代表して一言)あいさつを申し上げます。

まず、本展の開催にご指導、ご支援をたまわりました経済産業省をはじめ、「ご協力いただきました関係諸団体」、そして出展各社の皆さまに心よりお礼申し上げます。

さて、2年に1度の開催となり

日本ロボット工業会
会長 津田 純嗣

利用分野拡大・技術開発の加速期待

は「R T ロボットと共に創る未来」をテーマに開催しますが、今展により、その開催規模は126小間と、過去最大となりました。

特に、本展では「産業用ロボットゾーン」と「サービスロボットゾーン」に分け、東1ホールから東3ホールで展開しますが、とりわけ、産業用ロボットゾーンでは国内および海外メーカーからの出展拡大や新規出展などにより、過去最大規模となりました。

またサービスロボットゾーンでは企業からの出展に加え、新エネルギー・産業技術総合開発機構

は、「2013国際ロボット展」(NEEDO)や各自治体や海外の工業会・協会など、多数の団体からの出展もあり、同様に充実した内容となりました。

そして、4日間の会期中には、併催事業として6日午後に開催の特別講演や、ロボットメーカー・ユーザーによる「ロボットセミナー」はじめ、7日からセミナー、ワークショップ、フォーラムなどが多数開催されます。また併催企画展としては、大学などの技術シーズを公開する産学交流ゾーンの「R T 交流プラザ」、経済産業省などの「第5回ロボット大賞」合同展示などが展開されます。ロボットに関する最新情報を発信します。

産業ロボットはますます高機能化の方針にあるとともに、ユーチューバーズに合わせた省エネ対応や次世代生産への取り組みが見られるほか、サービスロボットも経済産業省やNEEDOのロボットプロジェクトなどを通じて市場化への積極的な取り組みが行われており、本展ではそれらの一端をご覧いただけます。

また、わが国経済はデフレ経済からの早期脱却と経済再生の実現に向けた政策(アベノミクス)効果が着実に浸透し、緩やかに回復しつつある中で、本展の開催を契機にユーザーの設備投資意欲が喚起されるとともに、ロボットの利用分野の拡大と技術開発がさらに加速されることを念願しています。

2013国際ロボット展 INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2013

ROBOT TECHNOLOGY
RT

ボットと共に創る未来



日本ロボット工業会と日刊工業新聞社共催の「2013国際ロボット展」が6日から9日までの4日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催される。隔年開催で20回目を迎える同展のテーマは「R T ロボットと共に創る未来」。過去最高の334社・団体が出展する。産業用や非製造業における各種ロボットをはじめ、応用システムと関連機器、大学・研究機関が一堂に集結し、ロボットテクノロジー（R T）に関する最新情報を発信する。入場料は1000円、学生・15人以上の団体は500円。事前登録者・招待券持参者・中学生以下は無料。開催時間は10時から17時まで。なお、同展示会の入場証で同時開催の「システム コントロール フェア2013（S C F 2013）」「計測展2013TOKYO」にも入場できる。

6日(水)ー9日(土)



ようこそ！関東ロボットセンタへ！！

安川電機関東ロボットセンタは、「来て・見て・触って ロボット体験」をコンセプトに、これまでロボットの使用に慣れていないお客様にも、実機を使ったデモやテストを通じてロボットへの理解を深めていただける施設です。当社ロボットの導入をご検討いただいているお客様にさまざまなソリューションをご提供します。



MOTOMANが導くモノづくり新時代



自動車産業

アーク溶接用 MOTOMAN-MA1440



食品・薬品・化粧品
ハンドリング用
MOTOMAN-MPP3



一般産業

新世代双腕ロボット MOTOMAN-SDA10D (/E)



サービス(生活支援)
サービスロボット
SmartPal VII



環境・エネルギー